

おおさかグローバルレター VOL.5

大阪府国際化戦略実行委員会 ☎06-6948-6781

大阪留学プロモーション事業について

大阪府国際化戦略実行委員会では、去年に引き続き、インドネシア・ジャカルタ、ベトナム・ホーチミンの2都市において、大阪留学プロモーション事業「JAPAN OSAKA 留学&就職フェア2013」を開催しました。今年は、ブース出展型のフェアイベントに加え、大阪と現地の学校同士の交流や提携を積極的に進めていくことを目的として、フェアと別日程での学校間交流会も開催し、フェア、交流会を通じて多数の参加者、来場者を集めて盛大に実施しました。

【インドネシア】

9月21日にバンドンエキスチェンジ（学校間交流会）、同22日にフェアイベントを開催しました。

バンドンエキスチェンジは、バンドン市にあるインドネシア教育大学を会場に、インドネシア側からは127名、大阪側からは52名の教育機関と企業の関係者が集まり、交流を



（バンドンエキスチェンジの様子）



（教育機関ブースで熱心に話を聞く学生）

深めました。はじめに行われた「インドネシアからの留学生を増やすために必要なこと」などをテーマとしたシンポジウムでは、大阪で何が学べるのかということにとどまらず、入試制度や学費など留学のハードルになるものについての真剣な議論も交わされ、双方が課題の情報共有を図る貴重な機会となりました。この後、自由交流の時間を設け、今後の提携や学生交流に向けた参加者同士の意見交換が行われましたが、時間が足りないと感じるほど熱心に交流が行われ、今後の連携の可能性に期待を感じることができるものとなりました。

翌日のフェアイベントは、ジャカルタ市中心部に立地する展示施設パライカルティニで開催されました。3,500㎡という大きな会場にもかかわらず、オープニングセレモニー時には、すでに来場者で埋め尽くされ、熱気で満ちていました。セレモニーでは、主催者挨拶に続き、来賓の在インドネシア共和国日本大使館 進藤雄介公使、ジャカルタ特別州教育局

アブドル・ハミド事務局長ほか、今回のフェアに協力いただいた関係の皆様からも祝辞をいただきました。

会場内は、教育機関ゾーン、企業ゾーン、大阪の魅力発信ゾーン、メインステージ、セミナールームを設け、教育機関ゾーンには大阪の大学、専門学校、日本語学校が計26ブース、企業ゾーンには大阪の企業やインドネシア進出日系企業が計20ブース出展しました。日本留学や留学後の日本での就職を真剣に考えている人が熱心に出展者の説明を聞く様子が数多く見られ、インドネシアの日本留学に対する熱意を感じました。

今回のフェアでは、留学生相談コーナーや奨学金相談ブースを設け、現地学生からの質問に直接応じる仕組みを用意したほか、大阪の魅力発信ゾーンにおいて、大阪への留学方法や、留学してから就職までのプロセスをわかりやすく展示するなど、大阪への留学に関する基礎知識や情報の提供に工夫



（オープニングセレモニーでのテープカットの様子）



（交流生のセミナーの様子）

を凝らし、来場者の参加満足度はかなり高いものとなりました。また、OFIXの学生交流事業として、インドネシアからの留学生であるデウィ・クスリニさんと、大学でインドネシアについて学ぶ

伊藤延繁さんには、バンドンエキスチェンジでのスピーチとパネルディスカッション、フェアイベントでのセミナーに出演いただき、直接大阪で学ぶ魅力を語っていただきました。実際の留学体験や大阪での暮らしについての生の声を聞けるということで、セミナーでは立ち見が出るほどの盛況ぶり、終了後も来場者から質問が多く飛び交いました。

フェアイベントの来場者は約4,050名にのぼり、日本語学習者が多く、発展めざましいインドネシアの若者に大阪の魅力を直接伝えることができた有意義なイベントとなりました。

【ベトナム】

11月3日にフェアイベント、同4日に学校間交流会を開催しました。フェアイベントは、ホーチミン市中心部から車で20分ほどのところにあるフートー体育館で開催しました。



(開会式でのテープカットの様子)



(パネルディスカッションで発表する交流生)

力発信ゾーンを設けるとともに、出展者が個別にセミナーを行うことができるセミナールームも用意され、大きなイベントのたたまいとなりました。

開会式には来賓のホーチミン市人民委員会のフーア・ゴック・トゥアン副委員長や在ホーチミン日本総領事館の中野江里子領事に祝辞を頂戴し、地元関係機関の協力のもとにこのイベントが実現したことを実感しました。

フェアイベントには午前中からたくさんの地元の学生のみなさんからの来場があり、各ブースでは熱心に留学に関する質問を投げかける姿が見られました。時間ごとに割り振られたセミナールームにおける出展者セミナーも、各時間、ほぼ満席となる盛況ぶりです。ベトナム人学生の日本熱の高さを感じることができました。その一方で、日本への渡航費や学費、生活費といった留学に関する経済的な条件や実状への問い合わせが多く、こうした情報がまだまだ十分に現地では入手できない状況であることが、プロモーションを進めるうえでの課題として見えたような気がします。

ステージ上では、ソプラノ歌手の飯島香織さんによるベトナム語での歌唱や書家の渡辺裕子さんによる書道パフォーマンスなどの文化イベントでも来場者楽しんでいただいたほか、企業ブースでもそれぞれ賑わいを見せ、一日を通じて開催されたフェアイベントには、最終的に1,850名の来場者がありました。

翌日は、ホーチミンと大阪の教育機関関係者が参加する学校間交流会を市内中心部のホテルで開催しました。ホーチミン側からは12、大阪側も17の教育機関が参加し、代表スピーチや学校紹介の後、自由交流の時間に移ると、双方の出席者は、名刺交換のあいさつから始まり、具体的にどんな交流や提携が



(フェアイベント相談ブースの様子)



(学校間交流会の様子)

できるのかなど、活発な意見交換が行われました。大阪側の参加者からは、直接、いろいろな学校の関係者と自由に意見交換するという機会はこれまでなかなかなかったことなので、有意義な時間だったといった声も聞かれました。

このベトナムのプロモーションでは、OFIXの学生交流事業として、大阪で学ぶ学生のレ・バ・ルアンさんと山本隆也さんの2名の交流生が、フェアイベントでのパネルディスカッションやセミナー、学校間交流会のプレゼンテーションに出演していただきました。学生の目線で、分かりやすく語っていただき、きっとベトナムからの参加者に大阪留学の魅力が伝わったことと思います。彼らの活躍にも心から感謝します。

以上のように、今年の留学プロモーション事業も無事2か国で実施することができました。2度目の開催ということでも去年の経験を活かしたことや、全般的に去年と比べて企画面での構想をしっかりと重ね、時間をかけた準備ができたことにより、概ね順調にイベントを進行することができました。今年も多数の来場者があったことは、両国における日本留学への期待や関心の大きさの現れですので、プロモーション事業を入口として、留学生を受け止めるための環境を整備することの大切さを改めて考えさせられました。1人でも多くの留学生が大阪に来ていただけるよう、実行委員会として今後ともしっかりと留学生をサポートしていく事業を展開していきたいと思っております。